

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201645		
法人名	有限会社 グループホームすだお		
事業所名	有限会社 グループホームすだお		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市須田尾町18番1号 (電 話) 0956-20-1535		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(19年11月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	0名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 83歳	最低 70歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院、中央病院、福田外科病院、さた歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台の住宅街の一角に位置するホームの玄関前にはベンチが置かれ、一息ついたり道行く人と言葉を交わしたりするのに丁度良い場所であり、土地の形が有効に活かされた変形のリビングは、窓が大きく射しこむ光で明るくゆったりとした空間になっており、入居者はエレベーター・階段を使い思い思いに集っている。眼前には市街地・佐世保港が広がり、ホーム裏の花壇へ2階からも直接行く事が出来るよう小さな橋をかけてある。路地を挟んで小学校があり、窓を開ける季節には子供たちの歓声等も聞こえてきたり、散歩の折に音楽会を見学させて頂く等“心身の癒し、安らげる豊かな生活を送る家”となっている。認知症の事はホームに聞くのが一番と、地域の方から相談をお受けする機会を持てるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①来訪者に対する擦り込み式手洗い等積極的な手洗いの実施を促し、職員の健康管理に注意する等感染予防に取り組んだ②全員出席で月1回開催されるカンファレンス時に内部研修を行い、外部研修に参加した時は資料配布等行っている③老人会の方に演奏に来て頂いたり認知症の相談に応じている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己・外部評価の項目の理解度は職員間の差はあるが、自己評価表に各自が気付いた事を記入し、話し合いをしてまとめる予定であったが、法人代表の評価とすり合せを行う迄には至らずケアマネジャーがまとめている。前回の評価結果を基に一部職員と改善策を検討し積極的に取り組んでいる
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の年間予定を事前にお伝えしハガキで開催案内をする等、積極的に参加して頂けるよう働きかけている。地域の方のご意見でホームの消防訓練の実施計画・報告を回覧版で回している。評価結果・自己評価について説明・報告は行っていないが、外部評価を受ける事はお伝えすると共に、ホームでの生活状況や抱える課題の他災害対策、介護保険制度やグループホームについて等お伝えしたり、町内会行事をお知らせ頂くようになり避難訓練を見学したい等、会議を通して連携がとれるような関係作りにも、サービス向上につなげられつつある。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 暮らしぶり・健康状態を来訪時にお伝えしたり、1ヶ月の様子を書いてお渡しし、家族の方が安心できるように配慮している。又、入居者の方がご要望等家族の方にお伝えしている事や、職員にもお伝えされていない事がないか等常にお聞きすると共に、意見・不満・苦情を運営に反映させられるよう苦情処理要綱を作成した。外部相談先・市町村・国保連当の窓口についても入居時に説明するだけでなく“苦情・ご要望の申し出について”窓口・担当者を明記し掲示している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが一町民として町内会に入り回覧板が回ってきたり、避難訓練の実施も回覧版で回して貰っている。“自分の周り自分ですましよう”と町内一斉の草取りや清掃に、ADLの低下等により参加が難しくなっている状況であるが、入居者も出来る範囲で参加している。隣接する小学校の運動会を見にいったり、中学生の訪問の受け入れや大正琴の演奏に来て頂いたり、公民館行事の町内の敬老会・餅つき大会等入居者と共に参加している。地域の方から認知症についての相談を受けたりしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームは家庭の延長で、地域の方と触れ合う場・機会を作り時間を一緒に過ごし、生活をする場としての橋渡しをする事であると考え、法人代表がホーム開設時に作った。地域の方と交流するのは当たり前の事であり、地域密着型サービスとしてホームに求められている事を、追及していきながら現状のままの理念を大切にしていきたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症・グループホームを理解し少しの変化を見逃さない事が大切と考え、管理者は常に現場で職員と共に人として、利用者にとって大切な事は何かを考え、理念の文言を伝えるのではなく言葉使い等その場に応じた内容で伝えている。朝の申し送り時やケアの場面で気になる時に、意識して入居者の立場になって考えないといけないと互いに注意し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する小学校の運動会を見にいったり、公民館行事の町内の敬老会・餅つき大会等入居者と共に参加し、中学生の訪問の受け入れや大正琴の演奏に老人会の方に来て頂いている。町内会に入っており避難訓練実施も回覧版で回して貰ったり、認知症についての相談を受けたりしている。“自分の周りは自分でしましょう”と町内一斉の草取りや清掃に、入居者も出来る範囲で参加しているがADLの低下等により参加が難しくなっている状況である。	○	ADLの低下等で直接の参加は困難な場合でも、その場に居合わせる事や出来る部分・可能な範囲での参加等を検討しながら、今後も取り組みを続けられ更に充実される事が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表は初回外部評価時に意義や活用について伝えているが、その後は特に内容について具体的に伝えていない為職員の理解度に差があると考えている。自己評価表に各自が気付いた事を記入しケアマネジャーがまとめているが、法人代表の評価とすり合せを行う迄には至っていない。前回の評価結果を基に一部職員と改善策を検討し、感染予防対策として擦り込み式手洗いを外来者にも促す等積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表・家族、地域住民代表、市職員などの参加を頂き第1回目をH.19.5に開催したが、不穩の為途中退席されその後は参加を見合わせている。会議の年間予定を事前に連絡すると共に該当月にハガキで開催案内をし積極的に参加して頂けるよう働きかけている。ホームの“消防訓練を町内会の方にもお知らせしたい”と地域の方のご意見があり、実施計画・報告を回覧版で回している。外部評価を受ける事はお伝えしているが、評価結果・自己評価について説明・報告は行っていない。	○	入居者の方にも継続的に参加頂く為の取り組みとして、場所を改めて開催するだけでなく入居者の方が寛いでいる所でお茶を飲んだりしながらご意見を頂いたり、体調や様子を見ながら場所を変えて議題に入っていく等検討され、今後更に推進会議がサービス向上に反映されるよう取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの活動内容や情報提供を継続的に行っているとは言いが、空室状況等については担当者にお伝えしている。設備拡充について等担当者に相談しており、今後も取り組みを継続的に行っていく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態について来訪時にお伝えしたり、担当者が1ヶ月の様子を家族面談表に書いてお渡ししている。金銭管理を行っている方は現在いらっしゃらないが、必要に応じて来訪時に領収書をお渡しし、出納簿にサインを頂いき、職員の異動がある時は職員が紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“苦情・ご要望の申し出について”窓口・担当者を明記し掲示すると共に、入居者の方がご要望等家族の方にお伝えしている事が何かないか、職員にもお伝えされていない事がないか等常にお聞きしている。外部相談先として嘱託医に依頼し掲示を行い、市町村・国保連の窓口についても入居時に説明しているが繰り返し説明はされていない。意見・不満・苦情を運営に反映させられるよう苦情処理要綱を作成した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独ホームの為職員の異動はないが勤務条件の改善の為、休みの希望に出来るだけ応じ、調理を主にされる方や日勤だけの勤務者もいる。職員親睦の為食事をやる事もあり、職員同士連絡し相談したり喜怒哀楽を共にしている。新しい職員にはその都度一緒に勤務しながら、情報提供・指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修を始め市町村・協議会主催研修会に参加し、ケアカンファレンスや定期的な内部研修時に伝達や資料配布を行っている。ケアマネジャーや勤務者が必要な部分についてはOJTも取り入れ、職員の得意な事を把握し個々のスキルアップについて、全職員の具体的な計画はたてられていない。	○	自己啓発として研修を受けて欲しいと思っており研修費補助も体制を検討している。研修内容の共有を図るため資料配布に終わらず、少しずつ時間をかけ口頭で伝えていく機会の確保等積極的な取組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・連携の必要性は認識しているが、時間的な問題もあり積極的に取り組んでいるとは言えない。グループホーム協議会は夜間の開催の為管理者が出席し、職員親睦の機会はあるが、生活背景もあり参加は難しい状況である。	○	研修案内の情報を伝え事業所内に掲示すると共に内容によっては参加できるよう支援し、自己啓発も含め相互訪問・見学を通して職員に気付いて欲しい思いを伝え、サービスの質向上に向けて取り組まれる事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャー・管理者が面談に伺ったり、本人・家族が見学に来られた時の情報を伝え、好まれるコミュニケーションの方法やたばこを吸う場所や1人で過ごせる場所等、徐々に馴染めるよう入居後の対応について等職員と検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が忙しそうにしている時に「何か手伝う事ないね、頑張らんばよね」等言葉かけや他入居者の方の見守りをされたり職員が助けて頂いている事もある。らっきょ漬、梅干し作りで“こうしたらいいですか”等入居者に教えて頂く場面を意識的に作っている。故郷の歌や童謡と一緒に歌い懐かしさに共に浸っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	早出勤務者が起床時の様子を職員に伝え、その日の体調や希望等を把握するようにしている。一人暮らしをしていた時のように自由に買い物したい方もおられ、ホームの買い物の時に一緒にいる。明確な意向の表明が困難な方についても生活歴・習慣・趣味等出来る限り把握し、行動・表情の背景を推察すると共に、物品を示し興味を引く物や行動している事について、話題を提供しながら家族からの情報や思いをお聞きし今の気持ちの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題・目標に地域で暮らすという視点は盛り込まれているが、入居者一人ひとりの状況・思い・生活習慣等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な課題・目標は明確な記載がなく、現在行われているケアはポイントのみが計画に記載されている。全職員で話し合いを行い意見・気付きは反映出来ているが、入居者・家族の意向等が反映されているとは言えない。	○	ケアの方法・留意点を統一していく為にも入居者毎の「個別介護手順書」の作成や、現在行っているケアをすべて介護計画に記載する等の取り組みが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全入居者について新たな要望や変化が見られない時も、月に1回程度はケアの変更の必要性について等検討している。入居者・家族の要望・状態に変化が生じた時や新たな気付き・意見が出た時等、臨機応変の計画の見直しを行う時もあるが設定した時期まで行わない時もある。	○	状態変化や新たな気付き等を計画に反映させる為必要に応じ、現状に即した見直しが柔軟に行われるよう、取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制、美容室・通院時の移送サービスやスーパーへの買物等支援している。地域の方からのご依頼があればケアについても、その都度相談に応じ柔軟に対応していく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関について入居時にお聞きし、事業所の協力医療機関での受療や必要によっては往診等24時間対応して頂いている。専門的な治療が必要な時や救急を要する時等、医師から病院へ連絡して頂き情報提供等して頂いている。医療機関の所在地や受療頻度により家族にお願いする事もあるが、職員が通院介助を行い受診結果については変化がない時も速やかに報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	頻繁な医療行為を必要としない場合はホームで対応は可能である事を、入居時に説明を行い本人・家族の意向を把握し出来ている。入居者の状態変化や家族の状況の変化があった時には、嘱託医・管理者・ケアマネジャー・家族で繰り返し話し合い、ケアの現状や方針について理解頂けるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言を使ったり入居者の馴染まれている呼び名を使う時も、目上の方に対する尊敬の念をもって接し、誘導の声かけ・排泄介助・食べこぼしの対応等、自尊心・羞恥心に配慮しさりげなく行っている。職員は個人情報保護法について理解しており、地域の方々に不用意に話さない事は勿論、外部で職員同士で話さない事やメモ類の処理についても、情報漏洩に十分配慮し徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムがとれるような声かけ・誘導は行いが無理強ひせず、入居者の習慣やその日の体調・気分を尊重しながら、お誘いしホームの行事として全員で行う事もある。食事・入浴や家事等かなり時間がかかる方についても、健康に支障のない範囲で納得されるまでゆっくりして頂き、希望や好みに配慮しカラオケやパズル等準備し、出来る限り希望に応じられるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い・お盆拭き等食事に関する一連の作業も無理強いせず体調に合わせ、その時に出来る事をして頂いている。食事制限や咀嚼・嚥下力低下がある時も量を調節したり、器や盛り付け方の工夫をし、検食当番の職員と一緒に食事をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯・回数がある程度決めているが、希望がある時には時間帯により難しい場合もあるがシャワー・部分浴・清拭等に対応している。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温・一番風呂や最後にゆっくり入りたい等の好みに合わせて個別に対応している。一人でも入りたい方や同姓介助等、羞恥心への配慮や菖蒲湯等季節感を取り入れ入浴を楽しんで頂けるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケやテレビの歌・スポーツ番組、ジグソーパズル・計算ドリル、買い物、新聞紙のごみ箱作り等入居者一人ひとりが楽しんでおられるが、それが役割・楽しみ事を持って頂く事につながっているのか不安な方もいる。入居者毎に生活歴・趣味・習慣を活かし、個別の役割や楽しみ事を持って頂けるよう積極的に取り組んでいるとは言えない部分がある。	○	個々の生活歴や趣味・習慣等家族からの情報を基に、その時々々の行動や表情から推察する等、入居者全員が楽しみ事・役割を持って頂き活力を引き出せるよう、今後も取り組みを継続される事に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	これまでの生活の継続としてスーパーに買い物に行ったりドライブ等、個別の外出が出来ている方もいるが機会は減少しており、日常的に外出しているとは言えない。気分転換・五感刺激の為に玄関前の椅子で過ごしたり、ホームの花畑に行く等戸外で過ごす機会を作っている。入居者の希望をお聞きしたり気持ちを察しての外出等、事業所側の都合になっている事も多く対応等出来ているとは言えない。	○	外に出る事・外気に当たる事が良い事だと理解されており、その考えを基に個々の身体能力も考慮しながら外出できる方法も含め、今後外出の機会を増やしていけるよう職員と共に検討し取り組まれる事に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	避難・職員出入り口と19時～6時迄の防犯上の施錠以外は行っておらず、階段・エレベーター等も入居者が自由に使えるようになっている。安全確認の為に職員が立つ位置を工夫したり、プライバシーの侵害や音による行動制限に配慮しながら職員同士で声を掛け合っている。自室に鍵をかけられる方もおられるが、安全確認など必要に応じて解錠する事は出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した消防・避難訓練を年2回行っており、地域に対し回覧版でお知らせしているが、参加を頂く迄には至っていないが今後も訓練の実施についてのお知らせを継続していく。災害発生に備えて食料や飲料水等、特に準備はされていない。	○	災害備蓄について何が必要なのか資料等を参考にしながら、必要物品・数量等についても職員と共に検討し準備される事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせ肉を魚にする等食材を変えたり、献立の時にその日その日に食べたい物等お聞きしながら対応している。食事量を把握・記録し飲水については必要量が摂取できているか確認しながら、不足している時には吸い飲みの活用や好みの飲み物で摂取量を増やせるようにしている。カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為の取り組みは特にされていないが、定期的な体重測定・血液検査の結果に基づき医師から助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階の共用スペースはテレビ等も設置され、自由に過ごせるようなソファがあり、入居者は思い思いに過ごされている。台所の調理の音や食事の準備の匂い等生活が感じられる空間になっている。エレベーターで自由に2階と1階を行き来され居室で過ごす事が出来るよう配慮されている。1階フロアの片隅にテーブル・椅子・灰皿・ライターを備え付けた喫煙コーナーを設ける等喫煙管理を徹底させ、体に良くない事をお伝えしながらも、気の向くままにゆっくり喫煙し寛げる空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	天皇陛下と皇后陛下の御真影、赤ちゃんの写真が載っている広告、新聞や雑誌を切り抜いた子供達の写真が、ベッドに横になった時に良く見える居室の壁に貼られている。ホーム備え付けのベッドの他は仏壇や自分でされた洗濯物が干してあったり、家族の方が持って来られた人形等があり、生活されている方の暮らしが垣間見られ、それまでの生活の継続に配慮され居心地良く過ごせるようにしている。		